

## コストに対するスタッフの意識向上をめざして

### The object to improve awareness of staff about the cost

集中治療部：中村和江 瀧浪智子 坂元さおり 召田ひろみ 小林利江

key word ; コスト・削減・意識

#### はじめに

当院では独立法人化に伴い低価格の医療器材への変更、SPD システムの導入など病院経営を考慮する取り組みがなされている。私達看護師もその病院経営について考え参画していく必要があり、コスト意識を向上させていくことは病院経営につながるものと考え。前回の研究では、スタッフの意識を知る為に身近に使用するアルコール綿を用いて、コストに関する意識調査を行った。結果、コスト削減に対する関心は高いが、実際の行動に関しては、同じ処置に対して使用枚数にばらつきがあり、認識に差が生じていると考えられた。そこで今回、個人の使用量の差についてどのような視点で使われているのか調査し考察した。

#### I. 研究目的

スタッフのコストに関する意識を知ること、どのような介入があれば良いのかがわかり、コスト削減に対し有効な関わりができる。又、身近なスタッフから意識していく機会を持つことで集団への行動変化につなげていける。

#### II. 用語の定義

コスト意識；看護師が患者様の安全・安楽を害することなく、時間の浪費や消耗品・衛生材料の節約を意識すること

#### III. 研究期間

平成16年8月～17年1月

#### IV. 研究方法

対象；当院ICU看護師22名

##### 1. コスト意識に関するアンケート調査

(啓発活動前後に実施)

## 2・アルコール綿の開封後の残量調査 13 例

## 3. 一ヶ月間のアルコール綿の使用量調査

## 4. 啓発活動（平成17年12月）

内容；アンケート結果の提示、価格の勉強会、入室の多い疾患別の使用量調査の結果をスタッフに提示。活動前後にアルコール綿・注射器・ガーゼの価格についての調査。

倫理的配慮；アンケートは無記名とし任意参加で行った。又、個人情報の保護について書面で説明を行った。

## V. 結果

1. 職場におけるコスト削減の関心について、平成16年9月と平成17年2月を比較。

（図1）コスト削減について関心がある結果がでた。職場でのコスト削減に対し感じていることについて質問したところ、“個人の心がけである”“身近な問題である”と感じており（図2）、ICU スタッフ全員に関心があり、身近な問題として受け止められていた。

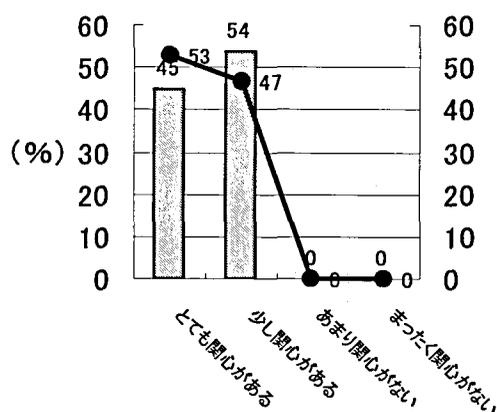


図1. 職場におけるコスト削減について

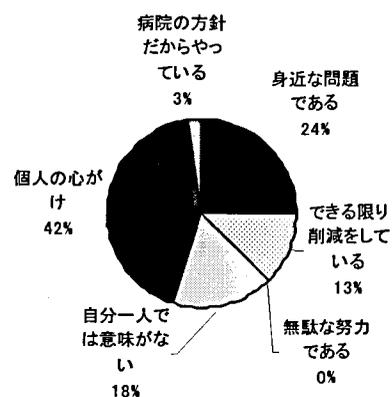


図2. 職場でのコスト削減について

2. (ICUではアルコール綿を1枚入りパックのものと100枚入りの物を使用) アルコール綿の開封後の残量調査では、吸引時に使用した残量が多く、点滴交換時は1枚パックを使用している傾向がわかった。又、アルコール綿の使い分けをどのようにしているか質問した。(図3) 8割以上が疾患別、点滴数で使い分けを意識していた。又、使いやすさで選択していると答えた人は5割、価格については8割が意識していない事がわかった。

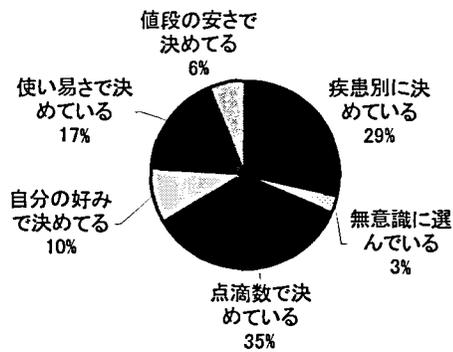


図3. アルコール綿の選択基準

3、1ヵ月の使用量調査を3回行い、1枚入りパックの使用量が増えてきていた。

4、啓発活動前に価格について質問したところ、正答率は1割と低く、100枚入りパックの価格が2000円～128円と誤差も大きくほぼ全員が普段使用している物品がいくらであるのか“知らない”結果がでた。活動後の結果は、正答率は低い誤差は小さくなった。又、「具体的な価格について知る事で、より意識し使用するようになった」という意見もえられた。

## VI、考察

今回の調査により、コスト削減に対する意識は高いことが分かった。関心が高かった理由としては、低価格の医療器材への変化やSPDシステムの導入などの日頃からの病院全体での取り組みがされていること、今回の調査活動によってコスト削減に対し、意識する機会になったことなども影響されていると考える。又、コスト削減に対し「一人一人の心がけ」「身近な問題である」という意見が多く、コスト削減についての意識を保つことで行動への変化がえられると考える。

物品を選択する際、状況に応じ選択している反面、コストを考え選択している場面は少なく、価格の情報や使用基準となるものが不足していると考え。今回の啓発活動によって価格の認識に改善が見られたことより、情報提供の効果があつた。衛生材料の価格に関心を持ち、情報を得ることにより無駄なく使用されることが期待される。又、前回の研究でコスト意識の違いにより個人の使用量に差が生じることもわかり、安全で無駄のない衛生材料の使用方法を見直していくことが課題になると考える。

## VII、結論

コストに対する個人の意識が重要であり、具体的な啓発活動を継続していくことで身近な問題としてとらえられ、コスト意識の向上、行動につながる。今後も意識が継続されるよう、啓発活動を行っていきたい。

## 参考文献

- 1) 芝原 脩次；意識改革から行動改革へ. 看護展望. 2001-9. P45
- 2) 山田 鈴子；業務改善のなかで進んだナースのコスト意識向上. Nurse data. V o l 19. N o 12, 1998 P12
- 3) 桃田寿津代；物品管理システムと看護業務. 医器学. V o l 71. N o 12. (2001) (33) P669